



JA OTOFUKE 2026



JA おとふけ 2026年度
農協案内

INFORMATION
BROCHURE



音更町農業協同組合
OTOFUKE TOWN AGRICULTURAL COOPERATIVE





代表理事組合長

土田 純雄

Sumio Tsuchida

Union president

わたしたちは北国の四季を収穫します。

JAおとふけは、昭和23年4月14日音更村農業協同組合として設立され、地域に根ざした大型総合農協として発展してきました。

当JAは、十勝平野の中心部に位置し、小麦、豆類、馬鈴しょ、てん菜を中心とした畑作物を18,738ha作付けし、日本でも有数の穀倉地帯を担っています。また、人参、長芋、玉葱、ブロッコリーなどの野菜振興にも力を入れています。

酪農、畜産も盛んであり、生乳は年間約47,602tを生産しています。

利用施設では、小麦の品質向上と効率化を目指して平成23年に小麦乾燥調製貯蔵能力の大幅アップを図り、現在の小麦の受入体制を構築しました。

平成30年に豆類貯留調製施設並びに低温貯蔵施設を増設し、豆類の更なる生産振興と、多様なニーズへの対応強化及び契約販売率向上などを図るとともに、高品質製品の安定生産・安定供給体制を構築しました。

青果では、平成16年に、玉葱・長芋貯蔵施設を、平成18年には人参洗浄選別予冷施設を建設し、集出荷選別施設の充実が図られています。

We harvest the four seasons of the Northern country.

Established on April 14, 1948, as Otofuke Village Agricultural Cooperative, JA Otofuke has since developed into a large, community-based, comprehensive agricultural cooperative.

Located in the heart of the Tokachi Plains, JA Otofuke is a key player in one of Japan's foremost breadbaskets, where wheat, beans, potatoes, sugar beets, and other upland crops are grown on 18,738 hectares of fields. The JA is also dedicated to promoting vegetables such as carrots, Chinese yams, onions, and broccoli.

Otofuke is also known for dairy and livestock farming, with approximately 47,602 tons of fresh milk produced annually.

To improve wheat quality and increase efficiency, we significantly upgraded our wheat drying, preparation, and storage capabilities in 2011, establishing our current wheat handling system.

In 2018, we expanded our bean storage and preparation facility as well as our bean cold storage facility. This expansion aims to further promote bean production, strengthen our ability to meet diverse needs, and increase contract sales rates while establishing a stable production and supply system for high-quality products.

In the vegetable section, facilities for collection, shipment, and sorting were improved by constructing an onion and Chinese yam storage facility in 2004 and a carrot washing, sorting, and precooling facility in 2006.

We also built a facility to manufacture foam cushioning material for Chinese yams in 2025. The adoption of this cushioning material, made primarily from a by-product of potato starch, is aimed at resolving long-term concerns over material procurement and reducing material and freight costs.

We built a biogas plant in 2015 to generate renewable energy from livestock manure and vegetable scraps, starting to sell electricity in 2016. This facility not only helps to reduce odors and prevent environmental pollution but also contributes to realizing a recycling-based society.

We are actively engaged in efforts to combat labor shortages through workforce support; improve soil infrastructure, including the utilization of subsurface drainage and soil conditioners like organic matter and lime materials; and promote smart agriculture as well as cooperation between crop and livestock farmers, among other initiatives.

To foster an understanding of Japan Agricultural Cooperatives (JA) and agriculture within the community, we have established an official website and YouTube channel while actively engaging in volunteer activities like roadside litter collection.

In this truly rural area, we are also focusing on financial services. In addition to aiming to stabilize business management and improve our cooperative members' quality of life, we are committed to local development through cooperative association business based on coexistence and mutual prosperity with the local community.

We commenced operations there on July 16, 2024. Moving forward, as a JA rooted in the community, we will continue striving to achieve a prosperous local community through sustainable agriculture and the collective strength of cooperation.

また、令和7年に長芋発泡緩衝材製造設備を建設しました。馬鈴しょでん粉の副産物を主原料とした発泡緩衝材の導入は、長期的な資材調達懸念の解消、資材・運賃コストの低減を図るものとなります。

平成27年には、家畜糞尿や野菜残渣から再生可能エネルギーを生産するバイオガスパラントを建設し、平成28年より売電を開始しました。この施設の稼働は臭気対策、環境汚染防止対策とともに循環型社会の実現を図るものとなります。

労働力不足に対応した労働力支援、有機物や石灰資材などの土壌改良資材の投入や暗渠排水をはじめとした土壌基盤整備、耕畜連携の推進、スマート農業の推進などを積極的に行っています。

地域にJA及び農業を理解してもらう活動として、ホームページや公式YouTubeチャンネルの開設、道路わきのゴミ拾いなどボランティア活動も積極的に行っています。

純農村地帯の中で、金融事業にも力を入れており、組合員の経営安定、生活向上はもとより、地域との共存共栄による協同組合事業を通して地域の発展のため鋭意努力しています。

令和6年7月16日から新本部事務所での営業を開始しました。今後も地域に根ざしたJAとして、持続可能な農業と協同の力で、豊かな地域社会の実現を目指し歩みを続けていきます。



音更町は、北海道の広大な十勝平野の中心部に位置し、十勝川を挟んで帯広市の北側に隣接しており、町村の中では全道一の人口を有する活気に満ちたまちです。また、北海道遺産に選定された世界でも珍しい「モール温泉」が湧き出す十勝川温泉や、日高・大雪連峰をはるかに望む美しい自然環境はとても魅力的で、四季を通じて観光客で賑わいます。

●音更町概要 令和8年4月末現在

位 置	東経143°02'～143°22'
	北緯42°55'～43°10'
面 積	466.02平方km
東 西	28.7km
南 北	32.8km
人 口	41,870人(男性19,851人/女22,019人)
世帯数	21,095世帯

JA OTOFUKE OUTLINE

組織概要

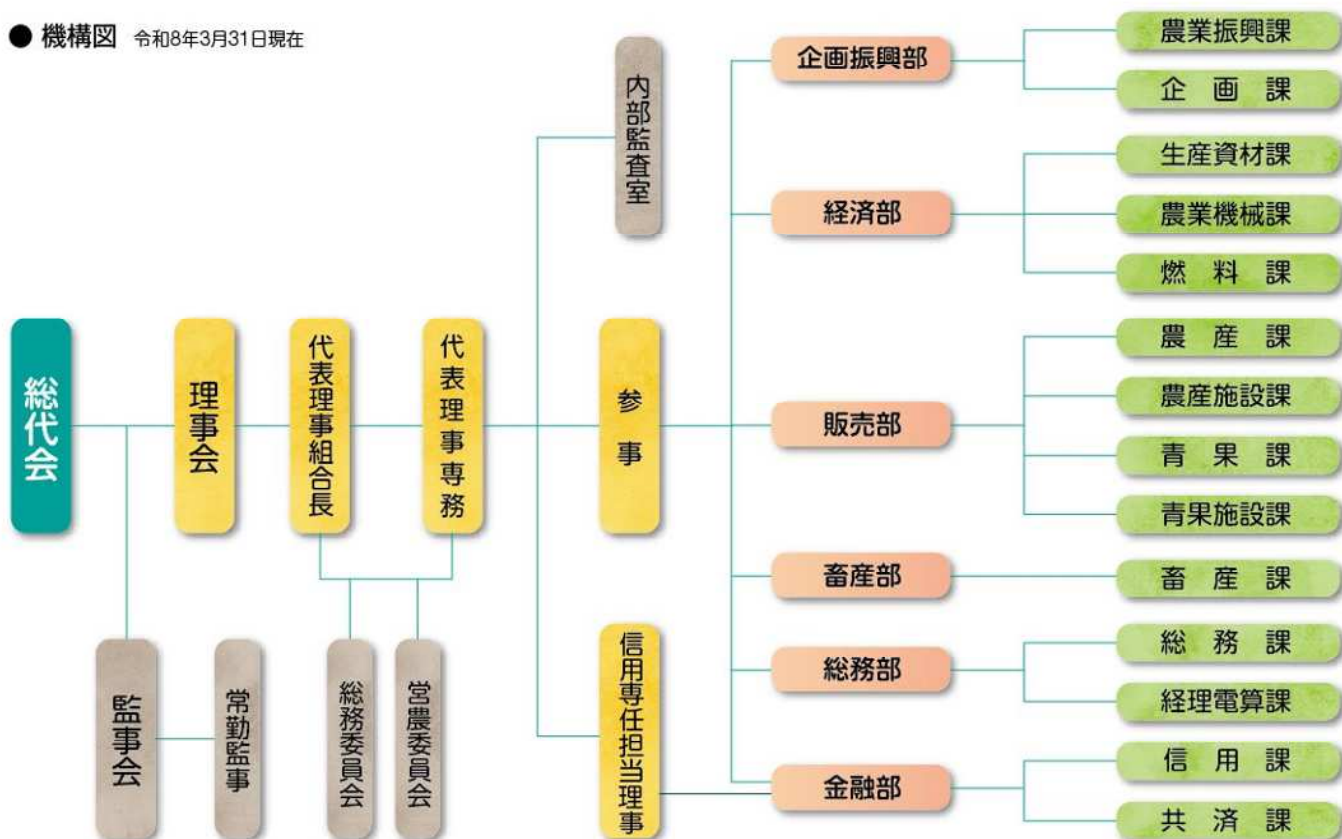
令和8年3月31日現在

設立 昭和23年4月14日
 地区 音更町一円
 正組合員戸数 464戸
 組合員 2,179名
 正組合員1,026名
 准組合員1,153名
 出資金 43億7993万円
 自己資本比率 30.34%
 役員 理事15名・監事5名
 職員175名
 (男性129名・女性46名)

- Foundation 14th April 1948
- Area Throughout the Otofuke town
- Household numbers of the cooperative members 464
- Members of the cooperative 2,179
 Official members 1,026
 Associate members 1,153
- Capital 4.3 billion yen
- Equity capital ratio 30.34%
- Numbers of directors and employees
 Directors 15・Auditors 5
 Staff 175 (Male129・Female46)

常設委員会 総務委員会6名
 宮農委員会6名
 地域農業振興協議会 13地域
 組合員組織 ● 地域農業振興協議会
 ● 女性部
 ● 青年部
 ● 小麦生産振興会
 ● 馬鈴しょ生産振興会
 ● 甜菜対策協議会
 ● そ菜生産振興会
 ● 農業機械協議会
 ● 簿記青色普及会
 ● 年金友の会
 ● 音更町酪農振興会
 ● 音更町和牛生産改良組合
 ● 音更町馬事振興会

● 機構図 令和8年3月31日現在



CORPORATE PHILOSOPHY

組織理念

農業の持つ「つくる」・「たべる」・「くらす」の要素を協同の力、意志の結集により「つなぐ」ことで

「持続可能な地域農業と豊かな地域社会の実現」を目指します。

JA Otofuke aims to achieve sustainable local agriculture and a prosperous local community by connecting the elements of agriculture—producing, eating, and living—through the collective strength and will of cooperation.

つくる

土、知恵、技術で「みのり」をつくる

大地の恵みと人の知恵、たゆまぬ技術革新により「みのり」ある農畜産物をつくり、生命産業である農業を守り続けます

たべる

農と食の「おもい」をつなぐ

農（生産者）と食（実需者・消費者）の心が伝わる、生産地と消費地が信頼し合う、互いの「おもい」をつないでいく役割を担います

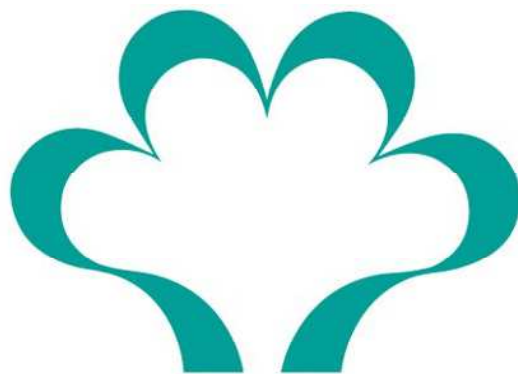
くらす

人の絆で「みらい」をきずく

一人ひとりの成長と人の繋がりにより、「みらい」への基盤をきずき、人々が安心して豊かに暮らすことのできる自然環境・社会環境を守り続けます



●シンボルマーク



JAおとふけの心

The heart of JA Otofuke



「農業者の心」・「JAおとふけの心」・「消費者の心」を表す3つのハートの重なりから構成され、外に向かって広がるような造形は、「前進・発展・繁栄」を表現しています。

The logo features three overlapping hearts, representing the heart of farmers, the heart of JA Otofuke, and the heart of consumers. The outward-expanding design expresses progress, development, and prosperity.

●キャッチコピー

わたしたちは北国の四季を収穫します。

組織概要・理念

事業実績

ブランド・地域貢献

主要施設1

主要施設2

主要施設3

BUSINESS

JAおとふけの事業

JAおとふけは、地域の農業振興に向けて農業者を対象とした事業を基本としつつ、地域社会に向けても幅広い事業を展開し、地域に貢献できるよう取り組んでいます。

JA Otofuke focuses on agricultural promotion for local farmers while also engaging in a wide array of activities to benefit the local community, contributing to the well-being of the people and the prosperity of the community in Otofuke Town.

農業振興事業

農業振興課・企画課

農業者の営農活動、生活に関するサポートや農業のPR活動を行っています。

- 農業経営支援 ●労働力支援
- 土地基盤整備
- スマート農業の推進 ●JAコネク
- 食農教育 ●組合員研修
- 生活に関する支援
- 農業振興計画・新規事業調査検討

購買事業

生産資材課・農業機械課・燃料課

農業資材・自動車・農業機械・燃料など幅広く取り扱っています。

- 生産資材の供給
- 廃プラスチック・農業空容器・紙類の回収
- 農業機械整備・修理 ●不要農機具の回収
- 車検整備・修理・板金・塗装
- 自動車・農業機械販売 ●加工製作・修理
- 油類などの供給 ●カーライフサポート

生産販売事業

**農産課・農産施設課
青果課・青果施設課**

農産物の生産に関する相談、推進並びに集荷、選別・調製、販売を行っています。

- 農産物の生産に関する推進、相談
- 優良種苗の生産、供給 ●試験栽培の実施
- 農産物の集荷、選別・調製、保管、出荷
- 農産物の販売
- 品目別生産振興会活動

畜産事業

畜産課

畜産経営に関する相談や、搾乳された生乳の集荷・成分検査、畜産振興を行っています。

- 生乳生産に関する相談
- 生乳の集荷及び検査
- 肉用牛の生産に関する相談と販売
- 各種共進会・共助会への参加の推進
- 家畜預託及び防疫対策
- 畜産振興

金融事業

信用課・共済課

ニーズに合わせた金融商品を提供し、営農や生活に安心のもてる相談に努めています。

- 貯金・為替業務
- 音更町指定金融機関業務
- 農業資金融資
- 住宅・マイカーローン等の融資
- 年金友の会活動支援
- JA共済への加入推進

総務・内部監査

総務課・経理電算課・内部監査室

自己資本の拡充による財務基盤の充実と、リスク管理、経営統制の強化に努め、健全経営を進めています。

- 農協運営に関する業務
- 組合員に関する業務
- 人事労務に関する業務
- 貸出審査
- 内部監査



貯金

農業者はもちろん、地域住民の皆様や事業主の皆様からの貯金をお預かりしています。



融資

お客様のニーズに応じた融資のご提案を行っています。お気軽にご相談ください。



共済

「ひといえ・くるま」の総合保障で、お客様の暮らしを幅広くサポートいたします。



金融相談

幅広く高度な知識を持つ専門スタッフが、皆様の生活設計に合わせた金融商品をご提案いたします。



整備工場

車両や農業機械の販売・修理のほか、乗用車やトラックなど幅広い車種の車検整備を行っています。



ガソリンスタンド

ガソリンや軽油、灯油、プロパンガスを供給する他に、コイン洗車場およびドライブスルー洗車場を常設していますので、ぜひご利用ください。



インターンシップの受入

中・高・大学生のインターンシップを受入しています。



出資金

住所または勤務地が町内にある方なら、1口1,000円からの出資で組合員になることができます。



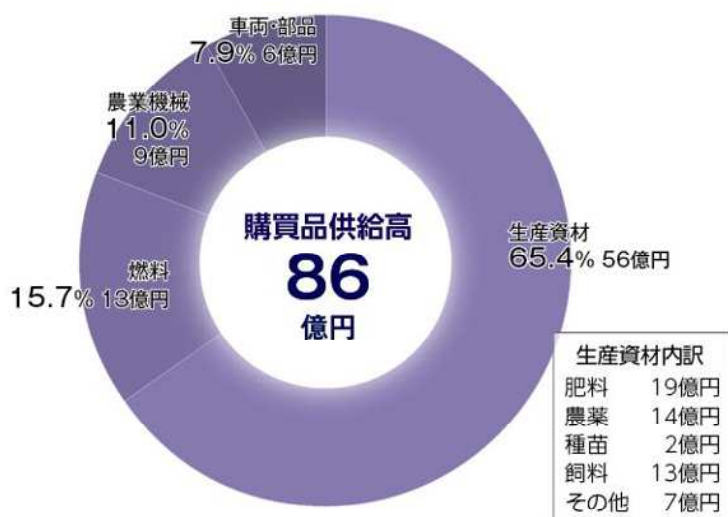
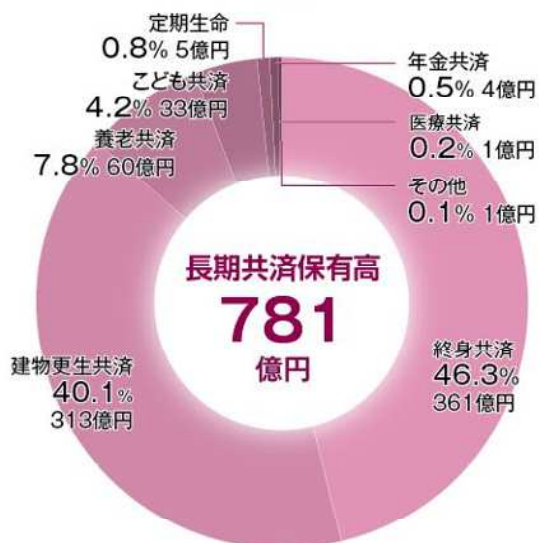
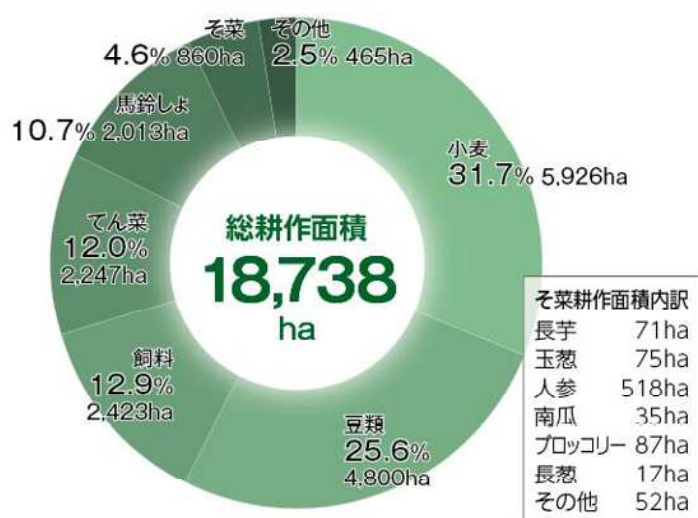
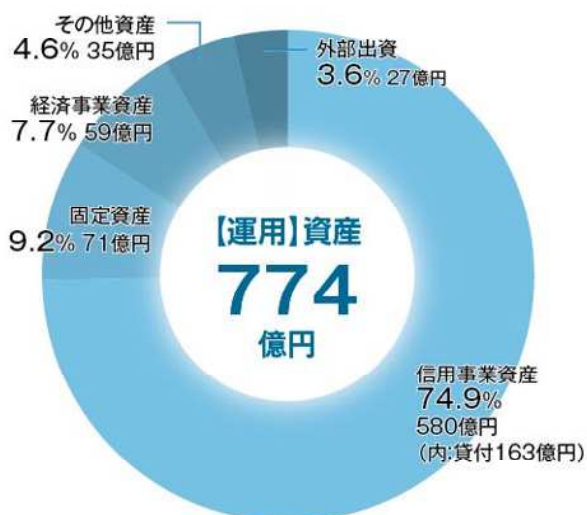
資材センター

肥料、農薬、種苗、飼料、小農具、作業着など営農に必要な各資材の供給をはじめ、さまざまなサービスを行っています。

RESULTS

事業実績

●財務の構成 令和7年度実績 注) 記載金額及び面積は、億円・ha未満を切り捨ててありますので、合計すると相違する場合があります。



組織概要・理念

事業実績

ブランド・地域貢献

主要施設1

主要施設2

主要施設3

JA OTOFUKE BRAND

JAおとふけブランド

十勝平野の中心部に位置し、小麦・豆类・馬鈴しょ・てん菜を基幹作物に日本有数の穀倉地帯を担う音更町。人参・長芋・玉葱・ブロッコリーをはじめとした野菜振興、酪農・畜産にも力を入れ、JAおとふけブランドとして全国に送り出しています。

Located in the heart of the Tokachi Plain, Otofuke Town serves as one of Japan's foremost breadbaskets with wheat, beans, potatoes, and sugar beets as its staple crops.

JA Otofuke also promotes vegetables such as carrots, Chinese yams, onions, and broccoli, as well as dairy and livestock farming, distributing products nationwide under the JA Otofuke brand.



小麦

秋に種を播き、翌年の夏に収穫する「きたほなみ」という製麺性に優れた品種を多く栽培しています。



馬鈴しょ

生食用の「男爵薯」、「メークイン」、加工用の「トヨシロ」、「きたひめ」、でんぷん原料の「コナヒメ」などを栽培しています。



人参

選別工程で人参を冷やすことで鮮度と栄養分を保持する“コールドチェーン”に取り組んでいます。



玉葱

長期間出荷するため、極早生から貯蔵性に優れた品種まで、バランスよく栽培しています。



大豆

音更で栽培されている大豆の主なものは、インフラボン含有率が多い「音更大袖振大豆」、「ユキホマレR」などがあります。



小豆

風味豊かな「エリモショウスズ」や「きたろまん」などが栽培されており、低温貯蔵庫で保管し、徹底した品質管理を行っています。



黒豆

栄養素が豊富で、健康維持に不可欠な黒豆。音更では、粒が大きく、煮崩れの少ない「いわいくろ」を中心に栽培しています。



金時豆

音更産の金時豆は、粒の大きさ、皮の柔らかさなどが食品加工業界で高く評価されています。



長芋

良質な長芋を安定生産するため、音更では青果品と種子を別々の農業者が栽培しています。



ブロッコリー

日本有数のブロッコリー産地としても知られています。



牛乳

酪農家が丹精込めて育てた牛たちから搾られた生乳は、風味豊かで栄養満点です。



肉牛

冷涼な気候と栄養満点の牧草が揃う好条件が「音更町すずらん和牛」というブランド牛を生みました。

LOCAL CONTRIBUTION

JAおとふけの地域貢献

JAおとふけは、音更農業の発展と組合員の生活向上とともに、地域の人びと、地域社会への貢献に向けて食育・農育活動やイベントの開催、ボランティア活動などの様々なサービスを通じて、地域の皆様に親しまれる活動を積極的に展開しています。また、各種団体への寄付、イベントへの協賛などを通して、地域活動を支援しています。

JA Otofuke is dedicated to the development of agriculture in Otofuke and the improvement of its members' quality of life. In addition to these efforts, it engages in various activities for local people, including shokuiku (food and nutrition education), agriculture education, and events to benefit the local community, as well as services like volunteer work. The JA also supports local activities through donations to various organizations and sponsorships of events.



親子料理講習会

音更町内の小学生を対象とした親子料理講習会を開催。音更産食材の美味しさと調理方法について親子で楽しく学びます。



食農教育総合プログラム

音更町と協力し、子どもたちに食と農のつながりや、畑で作物を作る楽しさ、面白さを伝えています。作物の成長を通じて農業に興味を持ってもらいます。



音更ふるさと農村絵画コンクール

音更の農業や農村の風景を描くことで、農業の大切さを理解してもらうことを目的に主催しています。



親子わくわく農業体験

消費者との交流を目的に、農業者の若者たちで組織する青年部主催の農業体験。野菜収穫や音更産食材の料理体験などを行っています。



地域特産品イベントに参加

音更町で行われる地域イベントにも積極的に参加し、音更産食材の美味しさや安全性をPRしています。



地域の清掃活動

クリーンタウン音更の会に加盟し、清潔で住み良いまちづくりを目指し、町内の清掃活動に積極的に参加しています。



おとふけ給食

子どもたちに給食を通して、音更産の農畜産物の美味しさ、安全性を知ってもらう音更町の取り組みに協力しています。

※「おとふけ」とは、アイヌ語の「オトプ」(毛髪が生ずる)が転訛したもの。
川の支流がたくさん流れているところの意味。



福祉団体への寄贈

女性部活動の一環として、地域の福祉団体へタオルやトイレトペーパーの寄贈を行っています。



社会福祉活動

音更町社会福祉協議会の活動に賛同し、古切手・ベルマーク・書き損じはがきの収集やフードバンク事業、各種行事などの協賛を行っています。

THE FACILITIES OF JA OTOFUKE

JAおとふけ主要施設

本部事務所は、災害時にも電力供給が可能な太陽光発電や地下空気を利用した空調システムを取り入れ、消費電力を抑えるなど、SDGsを考慮した設備も兼ね備えています。また、組合員の皆様のさまざまな相談に対応できるように相談スペースを確保し、2階には休憩スペースや談話室を設けた造りとしています。

The Head Office building incorporates sustainable features, such as solar power that can supply electricity even during disasters and an air conditioning system utilizing underground air to reduce power consumption. It also includes additional consultation spaces for members, as well as rest areas and a lounge on the second floor.

① 本部事務所 4,465㎡（令和6年建設）



● 企画振興部・総務部・内部監査室



● 金融部



● 役員席



● 2F ホール



● 談話室



● 役員会議室



● 大会議室



● BEMSの導入
（エネルギー使用状況の「見える化」と
機器の稼働を制御するシステム）





① 資材センター 981㎡ (令和4年建設)



② 北海道運輸局長指定整備工場 2,304㎡ 洗車・清掃／板金・塗装場 (平成26年建設)



③ エーコープおとふけ(株)ホクレン商事/1,490㎡ (昭和57年建設)



④ 第2スタンド 2,635㎡ (昭和48年建設)



⑤ 第1スタンド 1,107㎡ (昭和43年建設)



⑥ 燃料備蓄所収容力 1,200kℓ (昭和55年建設)



⑦ 畜産部事務所 (昭和57年建設)



⑧ 共愛牧場



⑨ 種子馬鈴しょ共同選別施設 (平成21年建設)



⑩ 種子馬鈴しょ・種子長芋消毒施設 (平成21年建設)



⑪ 種子馬鈴しょ貯蔵庫 5棟 (昭和54年建設)



施設・事業所

- | | |
|---------------------------|------------------|
| ① 本部事務所 | ⑩ 青果管理センター |
| ② GPS基地局(本部事務所) | ⑪ 種子馬鈴しょ貯蔵庫(駒場) |
| ③ 資材センター | ⑫ 種子馬鈴しょ共同選別施設 |
| ④ エーコープおとふけ店
(株)ホクレン商事 | ⑬ 種子馬鈴しょ種子長芋消毒施設 |
| ⑤ 農産センター | ⑭ 種子馬鈴しょ貯蔵庫(武儀) |
| ⑥ GPS基地局(農協サイロ) | ⑮ 種子馬鈴しょ貯蔵庫(南柏) |
| ⑦ 第1スタンド | ⑯ 共愛牧場 |
| ⑧ 畜産部事務所 | ⑰ バイオガスプラント |
| ⑨ 北海道運輸局長指定整備工場 | ⑱ GPS基地局(昭和) |
| ⑫ 第2スタンド | ⑲ GPS基地局(高倉) |
| ⑬ 燃料備蓄所 | ⑳ GPS基地局(豊田) |
| | ㉑ GPS基地局(西中音更) |



⑩ バイオガスプラント
能力42t/日発電能力最大150kwh(平成27年建設)



⑪-⑱ GPS基地局 町内6ヶ所
(平成27年建設)

② 農産センター

農産センターでは、小麦の他にも大豆、小豆、金時の調製を行っています。また、JAおとふけ管内では馬鈴しょ、てん菜なども生産されています。こだわりを持って、農産物の生産・調製を行い、安心・安全な農産物を皆様へお届けしています。

The Agricultural Products Center processes not only wheat but also soybeans, adzuki beans, and kidney beans. JA Otofuke also produces potatoes, sugar beets, and other crops. We are dedicated to producing and processing agricultural products with great attention to quality, delivering safe and secure crops to everyone.



- 2018
豆類貯留調製・低温貯蔵施設
(平成30年建設)
- 延床面積
貯留調製施設: 3900.08㎡
低温貯蔵施設: 2229.28㎡
 - 処理能力
荷受能力: 受入口2箇所
15t/h×2系列
貯留能力: 貯留ビン 50t×60基
調製能力: 5t/h×2系列
貯蔵能力: 60,000袋



- 2013
豆類貯留調製・低温貯蔵施設
(平成13年建設)
- 延床面積
貯留調製施設: 1464.8㎡
低温貯蔵施設: 2799.6㎡
 - 処理能力
荷受能力: 10t/h×2系列
貯留能力: 50t×24基
調製能力: 3t/h×1系列
貯蔵能力: 100,000袋





● 農産センター（平成27年建設）



● 小麦乾燥調製貯蔵施設（平成20年建設）

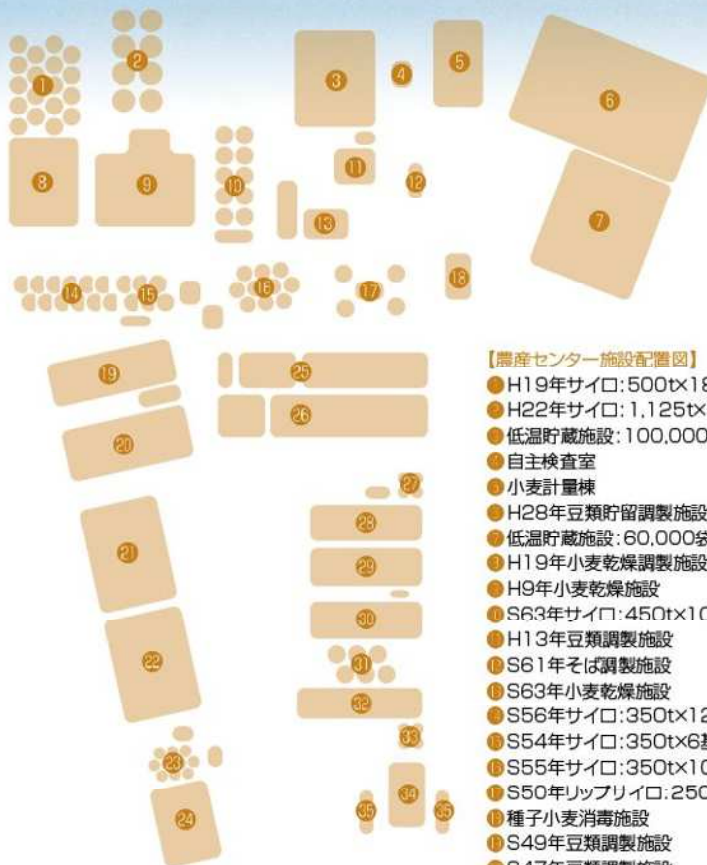
- 処理能力
- 荷受能力受入口14箇所 10t~80t/h
- 貯留能力：サイロ80本
- 収容力：43,620t
- 調製能力：1番施設 10t/h×1系列
- 4番施設 10t/h×2系列
- 14番施設 12t/h×2系列



- 小麦サイロ（貯蔵施設）
- 貯蔵能力
- 9,000t
- (1,125×8基 H22年サイロ)
- 9,000t
- (500×18基 H19年サイロ)
- 農産センター事務所
- トラックスケール



● 小麦計量施設（平成23年建設）



【農産センター施設配置図】

- H19年サイロ：500×18基
- H22年サイロ：1,125×8基
- 低温貯蔵施設：100,000袋
- 自主検査室
- 小麦計量棟
- H28年豆類貯留調製施設
- 低温貯蔵施設：60,000袋
- H19年小麦乾燥調製施設
- H9年小麦乾燥施設
- S63年サイロ：450×10基
- H13年豆類調製施設
- S61年そば調製施設
- S63年小麦乾燥施設
- S56年サイロ：350×12基
- S54年サイロ：350×6基
- S55年サイロ：350×10基
- S50年リップリイロ：250×4基
- 種子小麦消毒施設
- S49年豆類調製施設
- S47年豆類調製施設
- 低温貯蔵施設：50,000袋
- 低温貯蔵施設：50,000袋
- S50年サイロ：350×10基
- 貯蔵施設：46,000袋
- S49年貯蓄ビン：1,232t
- S47年貯蓄ビン：2,000t
- 冷却サイロ
- S53年小麦乾燥調製施設
- S44年貯蓄ビン：528t
- S45年貯蓄ビン：528t
- S46年サイロ：350×6基
- S44年小麦乾燥調製施設
- 冷却サイロ

組織概要・理念

事業実績

ブランド・地域貢献

主要施設1

主要施設2

主要施設3



② 青果管理センター

青果管理センターでは、人参、長芋、南瓜、玉葱、長葱、アスパラガスの選別を行っています。また、JAおとふけ管内では、ブロッコリー、ほうれん草などの野菜も生産されています。それぞれの季節で旬な野菜を、新鮮な状態で皆様へお届けしています。

The Fruit and Vegetable Management Center sorts not only carrots but also Chinese yams, pumpkins, onions, green onions, and asparagus. In the JA Otofuke area, vegetables like broccoli and spinach are also cultivated. We deliver fresh, seasonal vegetables to everyone.



- 人参洗浄選別予冷施設
(平成18年建設)
- 延床面積:4761.7㎡

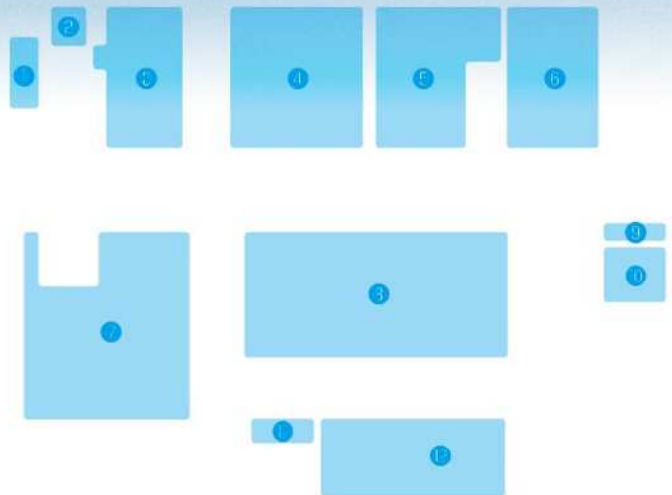


● コールドチェーン

収穫した人参は水を利用した予冷施設で冷却され、その後も選別工程の合間に水による洗浄、冷却水槽、真空予冷、そして3℃に設定された製品庫での保管、冷蔵車輸送と温度管理を徹底します。



⑪ 青果管理センター（平成3年建設）



【青果管理センター施設配置図】

- ① 長芋発泡緩衝材製造施設
- ② 沈砂槽
- ③ 長芋洗浄選別施設
- ④ 貯蔵庫3/A庫/B庫/C庫
- ⑤ 貯蔵庫1/貯蔵庫2/D庫(南瓜選別施設)
- ⑥ 玉葱選別施設
- ⑦ 人参洗浄選別予冷施設
- ⑧ 玉葱・長芋貯蔵施設
- ⑨ トラックスケール
- ⑩ 青果管理センター事務所
- ⑪ 長葱選別施設
- ⑫ 食品加工センター



- ③ 長芋洗浄選別施設
（平成3年建設）
- 建物:平成3年
- 機械導入:平成27年
- 延床面積:1,286㎡



● 長芋発泡緩衝材製造設備 緩衝材コストの削減や軽量化による輸送効率の向上を目的に建設しました。



⑤ 南瓜選別施設（平成3年建設）



● 玉葱・長芋貯蔵施設（平成16年建設）

組織概要・理念

事業実績

ブランド・地域貢献

主要施設1

主要施設2

主要施設3

わたしたちは北国の四季を収穫します。



JA おとふけ

音更町農業協同組合

- 本部事務所 〒080-0101 河東郡音更町大通5丁目1番地 TEL0155-42-2131
- 資材センター 〒080-0104 河東郡音更町新通5丁目1番地 TEL0155-32-4127
- 整備工場 〒080-0341 河東郡音更町字音更西2線13番地6 TEL0155-42-2203
- 第1スタンド 〒080-0101 河東郡音更町大通1丁目2番地 TEL0155-31-4030
- 第2スタンド 〒080-0301 河東郡音更町木野大通西19丁目8番地 TEL0155-31-4030
- 農産センター 〒080-0105 河東郡音更町新通北1丁目1番地 TEL0155-42-2660
- 青果管理センター 〒080-0341 河東郡音更町字音更西2線15番地4 TEL0155-42-3021
- 畜産部事務所 〒080-0335 河東郡音更町希望が丘1番地 TEL0155-42-8724

 <https://www.ja-otofuke.jp>



JAおとふけ
公式サイト



YouTube
公式チャンネル



Instagram
公式チャンネル